

關東車輛工組合同盟罷工に 就いて全日本労働者諸君の 正しき批判に訴へる

全日本の労働者諸君！

俺達が俺達の燃ゆる如き革命的な精神と、鐵の如き團結の力に依つて、敢然資本主義の牙城にその鋭鋒を向けつゝある時、俺達の陣營を攪亂せんとする總ゆる陰謀は、資本家と官憲に依つて公然と行はれてゐる。

日本労働總同盟一派の主張する中央集権的合同主義が、労働者を毒するものであることを信する俺達は、あらゆる場合に於て、自由聯合主義の優秀を勇敢に主張した。事實、關東に於ける自由聯合派の勢力はすばらしいものがある。この現状の前に怖れ戰いた合同派は、自己の勢力を盛り返へす爲めに、狼狽の極、共同の敵の存在をさへ忘れた。

彼等は、あらゆる方法を講じて自由聯合派の城塞を切り崩さうとした。巧みにこの處につけいつたのは實に資本家と官憲であつた。

諸君！俺達は、今、悲しむべき事實を諸君に報告しなければならぬ。俺達は嘗て俺達の仲間、兄弟と信じてゐた者の中に俺達の敵を見出したのだ。

俺達は、此處に事件の真相を明らかにし、全日本の兄弟労働者諸君に訴へんとするものである。

五月二十八日、東京本所錦糸堀汽車會社の關東車輛工組合に屬する八百餘名の兄弟は、不當解雇を受けた組合員十七名の復職と、南葛労働協會及び、官憲と氣脈を通じて、關東車輛工組合の堅壁を切り崩さうとした。會社側の御用組合、誠睦會に籍を置く安藤、向井兩名の放逐を要求條件として、敢然、同盟罷工を斷行した。

このストライキに際して俺達の最も奇怪に堪へないのは常に共同戦線を口にし戦鬪力の集中を云々する日本労働總同盟が、これを機として會社側の御用團體誠睦會を抱き込み同組合を關東鐵工組合本所支部と改稱すると同時に、官憲と共に公然罷工破りの行動に出たことである。この労働階級に對する敵對行為に出でた彼等の意圖が何處にあるか、俺達は、はつきりと識ることが出来る。即ち彼等は、この同盟罷工を惨敗に終らしむることに依つて、關東車輛工組合を五裂せし

大正十二年六月五日

め、多數の兄弟を自己の勢力下に吸集しようとしたのだ。

しかも彼等は自己の非を掩はんが爲めにあらゆる手段を用ひて卑劣なる行動の辯護に力めてゐる。關東鐵工組合本所支部は、この同盟罷工の勃發と同時に發したる宣言の中に言ふ。

「誠首されたる十七名に對する復職運動のみならば當然行動を共にするものであるが、かゝる労働者として兄弟を排斥する卑劣なる運動には、斷乎として反對する。同時に、労働者幸福の爲めの運動でないこのストライキに参加することを拒むものである」と。

然し乍ら俺達は識る。彼等が兄弟と稱する安藤向井の兩名は、會社側の御用を勤め、關東車輛工組合覆滅の前提として、同組合の戰鬪的幹部十七名誠首の口實を得る爲め、車輛工組合の幹部松本保を買収し、官憲及び日本労働總同盟と通じて、ストライキの要因を醸したる労働階級の敵である。即ち彼等は労働者の名を假る俺達の公敵なのだ。そして、日本労働總同盟はこの公敵を飽く迄ふことによつて自己の野望を充たさうとするのだ。

全日本の労働者諸君！

關東車輛工組合八百餘名の兄弟は正面に資本家側を、背後に日本労働總同盟を敵として、勇敢なる戦ひを闘ひつゝある。

全日本の労働者諸君！

この同盟罷工に際して日本労働總同盟及び南葛労働協會の採つた行動は、全労働階級を裏切る、資本家官憲と何等撰ぶ處なきものである。

日本の兄弟労働者諸君！

俺達は諸君の正しき批判に訴へる。

俺達はこの同盟罷工を裏切者共に蹂躪させてはならない。俺達は日本労働總同盟を徹底的に糾斷すると共に、敵を二方に受けて勇敢に闘ひつゝある關東車輛工組合八百の兄弟の爲めに敢然として蹶起しなければならぬ。

在京の諸君は直ちに應援に驅せ参ぜよ！
遠隔の諸君は誠意ある聲援を送れ！

自由人社